

平成 29 年度市民対話集会会議録

日 時：平成 29 年 10 月 15 日（日）18 時 00 分

場 所：むらさきかん

団体名：藤川まちづくり協議会
60 名

内 容：①開会
②市政ビデオの放映
③市長挨拶・説明
④団体代表要望・意見等
⑤その他要望等

市長― 皆さん、こんばんは。今日は、あいにくの雨天となってしまいましたけれども、この市民対話集会にご出席を賜りまして、本当にありがとうございます。また、皆さまがたにおかれましては、日頃より岡崎の市政運営に関しまして、格別のご理解とご協力を賜っておりますことに、厚く御礼を申し上げます。ここ藤川地区におきましては、藤川まちづくり協議会の皆さまがたが中心となりまして、地域の内外のかたがたと積極的に連携し、地区の歴史文化資産や景観を活かしたまちづくりへの取り組みというものが、活発に行われておるところであります。本市の新たなまちづくりといたしまして、歴史まちづくり計画に基づきまして、東海道の宿場がありました藤川宿の歴史的な風情を磨く取り組みというのが、地域の皆さまがたとともに進められておるところであります。

さて、この市民対話集会であります。市長就任以来、この5年間ずっと続けて実施してまいりまして、今回で45回目となります。また、各種講演会や、呼ばれればどこへでも行きますっていうことを言っております。政策説明会をやってきておるわけですが、そうしたものがこれまで300回以上になっというわけですが、そこで私が目指します市政というものについて、お話をさせていただいておるわけであり。こうした形で市民の皆さまがたのご理解を深めながら行政を行っているケースというのは、全国でもまれなことと自負しております。これは、私の理想といたします顔の見える民主主義というもの実践でありまして、それができる岡崎市を誇りに感じておるところであります。

このところの大都市に見られます、時の風に左右される大衆扇動型の政治というのは、結局のところ無駄ばかり多くて実りの少ないものだ、このように考えております。今回は貴重なお時間をいただきまして、市政の現状というものをご報告申し上げますとともに、皆さまがたからのご意見を伺いたいなというふうに楽しみにしておるところでありますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年の10月に皆さまからのご負託を受けまして2期目の市政運営がスタートしたわけですが、ちょうど1年を迎えておるところであります。その間、各政策も順調に進んでおりまして、先日、JR 岡崎駅前整備の核となります新たな商業施設がオープンしたところであります。これは300人規模のコンベンションホールと、オール・スイート仕様の宿泊施設をはじめといたしまして、レストラン、カフェを併設した結婚式場でございます。見に行きましたら、本当に素晴らしい結婚式場で、もう一回結婚式を挙げたくなる方も出るんじゃないかと思いましたが、「ララシャンス OKAZAKI」という名前が付いておりまして、フランス語の名前だそうであります。本市の南の玄関口として新たなにぎわいが生まれるものと、大変期待をしておるところであります。

そしてまた、ありがたいこととして、この度ある資産家の方からまた寄付のお申し出をいただきまして、東公園の恐竜の仲間が増えることとなりました。皆さんから見て左手にありますのがトリケラトプスという恐竜でございますが、これまで小さな子どもが2体あったんですけども、お母さんが欲しいという子どもさんの声がありまして、今回、オスカメスカは分からないですけども、大人のトリケラトプスの像を増やすことになりました。また、子

どもさんたちが一緒に写真を撮っていただける恐竜ベンチも、4 台増やすことになります。そして、すべり台やトンネルとして遊んでいただける、映画「ジュラシック・ワールド」にも出てきましたけれども、スピノサウルスの頭と背中、水から出たイメージで作った像もできるわけであります。最近子どもさんたちの目が大変肥えておりまして、いいかげんなものを作ると叱られてしまいますので、今回作る物はみんな本物志向でいきたいと思っております。今年の年末から来年にかけて順次設置してまいりますので、お子さま、お孫さんがおみえになる方は、ぜひ一度お運びいただきたいなと思います。

一方、近年、豪雨災害が頻発しておりまして、今年も北九州豪雨災害をはじめといたしまして、各地で被害が出ております。本市もレッドサラムンダーの派遣などを通じまして、被災地の支援を行っているところでありますが、こういった集中豪雨というものは、いつどこで発生するか分からないものであります。今年の 9 月にも、市内の各地域におきまして防災訓練を実施いたしまして、多くの皆さまがたにご参加をいただき、防災意識を高めていただきました。当日は、多くの皆さまがたが積極的に取り組んでいる姿を、私も拝見いたしまして、本市としまして、引き続き災害対策に万全を期してまいりたいと強く意識しておるところであります。

市制 100 周年の節目を経まして、これからの新たな 100 年におきまして、まちの魅力向上を図り、充実した市民サービスを提供していくためには、将来にわたって安定した財源が不可欠であります。これからの財政におきましては、現在の岡崎市の経済の柱であります、自動車産業を中心としたものづくりに加えまして、もう一つの柱として、本市の特徴であります独自の自然と歴史文化資産を活かした観光産業の育成ということが重要であると考えております。そのための第一歩となりますのが、現在着々と進めております乙川リバーフロント地区の整備であります。

今回のリバーフロント計画は、行政によるハード整備だけを目的としたものではなく、公共が整備した空間を民間の皆さまがたに活用していただき、そこで儲けを出していただくとともに、地域の価値を高めることで、さらににぎわいを生み出し、その結果、行政には税として収入が入ってくる、こういった稼ぐシステムをつくることであります。この趣旨のもと、昨年に続きまして「おとがワ! ンダーランド」を開催しているところであります。これは、民間の事業者により豊かな水辺空間で楽しむための仕掛けを施してもらいまして、そこで新たなにぎわいを生み出すといった取り組みであります。来年の 1 月まで、朝市でありますとか、各種水上アクティビティ、殿橋テラスなど、さまざまなメニューが展開されまして、毎週第 4 土曜日にはナイトマーケット、あるいは星空観望会といった、大人好みの企画も実施されます。そして、11 月 25 日には、今年で 3 回目を迎えます中部地方最大級の光の祭典となります「岡崎泰平の祈り」を、岡崎青年会議所と岡崎市が主催となりまして、民間の企業のご協力をいただき開催するものであります。皆さまにもぜひご参加いただきたいと思っております。

次に、ハード整備の状況であります。殿橋の下流の河川敷の整備がほぼ終わりました、き

れいに明るくなった河川敷におきましては、毎日多くの方が散歩やジョギングなどを楽しんでいただいておりますが、その他でも、若いカップルだけではなくて、高齢のご夫婦の方にも親しまれております。水はけのために使った石灰の影響だと思いますが、夜間には白く輝いたように見えることも思わぬ副産物となりました。これからも多くの方に、夜間照明が美しい遊歩道の散歩を楽しんでいただければと思っております。

また、殿橋と明代橋の間では、平成 31 年度の完成を目指しまして乙川人道橋の工事が進んでおりまして、現在、橋脚が 2 基と橋台が 1 基完成しておりまして、目で見ても整備が進んでいることを実感していただける状況となっております。この橋の本体というのはコンクリート製でありますけれども、床や手すりなどの表面には額田産のヒノキを使いまして、木装風の橋として仕上げてまいります。当初この事業に賛同いただけなかった方から、最近になりまして、実際にできた石積み風の橋脚などを見て、「やっと、おまえさんがやろうとしたことが分かってきた」と、こんな声もいただいておりますが、やはり言葉によって説明するということには限界がありまして、今後は一つひとつ形にしていく中で、視覚的に正しく理解していただけるように努めてまいりたいと思っております。

また、人道橋と籠田公園を結ぶ中央緑道におきましては、平成 31 年度中の完成を目指して、現在、実施設計を進めているところであります。今回の整備では、さまざまな世代が一緒にいられる公園環境をつくり出すとともに、安心して楽しく歩ける場所を提供していきたいと考えております。そして、先ほども申しましたが、決してこうしたハード整備をすることだけが最終目標ではなくて、これにより出来上がった空間を使って、いかにまちのにぎわいを取り戻していくか、このことが一番のポイントであると考えております。今後は、名鉄東岡崎駅を出発点としまして、人道橋、籠田公園、りぶら、岡崎城、乙川河川敷までをめぐる動線に沿って、皆さまに楽しく歩いていただき、人をまちへ呼び込むための工夫でありますとか、人々の好奇心をそそるソフト事業の取り組みも進めてまいりたいと考えております。その鍵となりますのはやはり、おいしい食べ物でありますし、面白いお土産、岡崎独自のサービスであると考えております。これにつきましては、特に民間ならではの独創的なアイデアに期待をしているところであります。

この動線でありますけれども、岡崎城の総構え、すなわち総曲輪と重なりまして、その形状が Q の字に見えますことから、アルファベットで「QURUWA（くるわ）」と名付けております。10 月 28 日には、この地域で「めぐる、QURUWA」というイベントを開催する予定であります。これは、まちでの過ごし方を考える社会実験ともなりますので、多くの皆さまがたにご参加いただきたいと願っております。

また、健康づくりを支援する新たな取り組みといたしまして、歩いて健康、食べて健康、そうしたことがまち中で実感できるような健康づくりの視点から、まちづくりを実践してまいりたいと考えております。なお、こちら藤川宿におきましても、多くの方が散策に訪れていると伺っております。何か面白いコースやアイデアがございましたら、ぜひ市役所のほうまで教えていただきたいと思います。

そして、東岡崎駅の周辺整備につきましては、東岡崎駅からリバーフロント地区への安全な歩行者動線を確保するために、ペDESTリアンデッキの整備を進めてまいります。中央部分にできます新たな広場では、イベント会場や朝市、移動ショップのような要素を取り入れた利活用を考えてまいりますので、これにつきましてもよいアイデアを提供していただきたいと思います。また、ペDESTリアンデッキには、これまでさまざまな機会で申し上げてまいりましたが、松平元康から徳川家康と改名した25歳当時の若き日の家康公のブロンズ製の騎馬像を、川と緑を背景に配置することとしております。この機会に、とにかく「たぬきおやじ」のイメージの強い家康公を、志あふれる若武者のイメージで売り出していきたいというふうに考えております。家康公像を制作していただきます、日本のブロンズ像制作の第一人者であります神戸峰男先生にも、日本一の騎馬像を作るという大変強い意気込みで、今携わっていただいております、私も大変うれしく思っております。

完成の暁には、単なる観光のスポットとしてだけではなくて、桶狭間の敗戦による人生の一大ピンチを独立のチャンスとし、天下を統一し、泰平の世を実現した家康公の一生から、困難に立ち向かって自分の人生を切り開くという精神を、岡崎の子どもたちに学んでほしい、このように考えております。そして、子どもたちが入学試験でありますとか、大きなスポーツの大会に行くときにこの前を通った場合には、簡単な祈りを捧げて出掛けていくような、そんな場になるといいなと、こんなふうにも思っております。

なお、先ほど映像でご覧いただきました東岡崎駅の北東街区のような新たな施設を含めまして、こうした施設につきましては、平成31年度当初の供用開始を目指して進めていく予定であります。同時に、この地域におきましては、路上喫煙やポイ捨てなどを規制する新たな条例の制定も検討しております。これから岡崎の玄関口が、快適で魅力的な駅前空間として大きく変わってまいりますので、ぜひご期待いただきたいと思います。

そして、乙川リバーフロント地区の整備に続く取り組みといたしまして、本市特有の歴史文化資産を活かした歴史まちづくりを進めてまいります。市内には13カ所以上の国指定の建造物があるわけですが、市民の方が意外とこういったことをご存じないわけがあります。お隣に住んでみえる奥さんにそういう話をすると、「え、そうなんですか」なんて言葉が返ってきたことがあります、がっかりしてしまったりすることがありますけども、これは大変もったいないことだなと思いますので、あらためて市民の皆さまにも、そのことを啓蒙し、知っていただきまして、これらの施設を点を線としてつないで季節ごとのコースとして設定いたしまして、私たちのほうから積極的に売り込んでいきたいというふうに考えております。

その起点となりますのが、やはり岡崎公園でありまして、これからは家康公生誕の城にふさわしい史跡として再整備をしていく必要があると考えております。特に、公園の中などに戦国期から江戸期にかけて整備をされました堀や石垣があるわけですが、こうした一つひとつのものが、大変歴史的な価値が高いものでありまして、岡崎城の最大の売り物であると思っております。昨年の菅生川端石垣に続きまして、9月に開催いたしました月見櫓の

発掘現場の現地説明会におきましては、市の内外から多くの皆さまがたがお越しになりました。近年のお城ブームとともに、あらためて歴史ある岡崎城跡の持つ魅力を再認識したところであります。

そして、名古屋城と同じように、岡崎城の天守も建築から間もなく 60 年を迎えますことから、近い将来、城をどのように建て替えていくのか、あるいは延命措置をするのかということが、重要な問題となってまいります。私としては、そのための、今からできる限り岡崎城に関する資料をきちんとそろえておきたい、このように考えております。現在、市民の皆さまがたには、ご自宅や倉庫に岡崎城の古い設計図であるとか見取り図、写真が残っていないか、もう一度ご確認いただきたいというふうに、広報などを使って何度もお願いをしているところであります。四国の高松城におきましては、同じ試みをしまして、古い写真が、なんとイギリスのケンブリッジ大学で発見されまして、お城の再建への弾みがついたというふうに聞いております。旧家の多い岡崎でも、同じように資料が発見される可能性は大きいと思っております。

そして、これらの事業以外にも、岡崎全体を見据えたまちづくりを着実に進めております。まず、岡崎市の北部にあります旧県営グラウンドであります。これは現在、仮称龍北総合運動場と呼ばれておりますが、ようやく愛知県からの移管が決まりまして、平成 32 年の供用開始に向けまして整備を進めてまいります。各施設におきましては、陸上競技場を第 3 種公認に向けまして全天候型の改修を行いますとともに、サッカーやラグビーのグラウンドとしても活用できるように整備をしております。また、大変老朽化が激しい 50 メートルのプールにつきましては、県の管理下におきまして撤去しまして、この跡に 8 面のテニスコートを造る予定になっております。なお、新たなプールにつきましては、多くの市民の方からご要望いただいておりますので、ただ今、場所の選定も含めて調査中であります。今後、さらに皆さまがたにご満足いただける施設となりますよう整備してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

南部地域におきましては、先ほどもお話し申し上げましたが、JR 岡崎駅前の各種再開発事業に伴いまして、噴水付きの公園整備を進めていく他、先ほどの商業施設と岡崎駅をつなぐペDESTリアンデッキの整備、周辺道路の電線類の地中埋設化なども実施してまいります。そして、市民の待望となります藤田学園の大学病院につきましては、これは名前が藤田医科大学病院に変わるそうでありますけれども、24 時間 365 日の救急医療に呼応した 22 の診療科と 400 床の病床を持つ総合病院が、平成 32 年 4 月の開院を目指しまして整備が進められることが、正式に決定したところであります。来年、平成 30 年の春からは建設工事も始まります。こうした大きな病院ができるということが出ますと、通常、地元の医師会が反対するものでありますけれども、岡崎におきましては、逆に医師会のご協力を得てこの病院進出というのが決まったわけでありまして、このことも付け加えておきたいと思っております。さらに、大学病院の隣接地には、藤田学園監修の健康器具を備えた、ヘリコプターも発着できる駅南中央公園の整備や、各種商業施設の進出なども決まっております、これから

南部地域は大きく変わってまいります。もちろん、こうした施設を活かすためには、接続道路や環境整備も必要でありまして、国や県とも協力してしっかりと整備していきたいと考えております。

また、額田地域におきましては、平成 30 年 2 月の供用開始を目指しまして、額田支所をはじめ周辺にあります額田図書館などの機能を集約した、額田センターの整備を進めてまいります。さらに、市内各地の公園整備につきましては、これからは高齢者のくつろぎと市民の健康増進のための場所としても整備をしていきたいというふうに考えておりまして、そこに地元産の木材を活用していきたいというふうに考えております。

そして、本宿駅周辺におきましては、駅前の再開発事業に加えまして、民間事業者によるアウトレットモールの進出が計画されております。これは、新東名岡崎東インターチェンジや国道 473 号バイパスの整備の他、国道 1 号、さらには名鉄本線からも近いという交通アクセスがよいことに加えまして、土岐や長島のアウトレットから 50 キロ離れていることなどの条件を検討の上に、場所が選ばれたものであります。実際にこれができるかどうか心配された方がおりましたので、先般あらためて事業者を確認しましたところ、現在、鋭意準備を進めているということでありました。この事業が実現すれば、額田地区を含む東部地域の活性化、雇用に対しまして大きなインパクトがありますので、岡崎市といたしましては、これに積極的に対応していきたいというふうに考えております。今、ご覧いただいておりますのが、事業者の持参いたしました建築パースであります。毎年、年末になりますと新たな説明にまいりますので、次回はもう少し具体的なお話ができるんじゃないかというふうに思っております。

矢作川地区におきましては、矢作川右岸の南北道路の整備や公園の整備などを行う他、JR 西岡崎駅におきましてエレベーターを設けるなどのバリアフリー化を進めております。そして、東名高速道路の阿知和地区におきましては、先般、国の指定を受けることになりまして、スマートインターチェンジの開設に向けた準備会を設立したところであります。一方、新東名高速道路のサービスエリア、NEOPASA 岡崎への開設につきましても、引き続き努力をしてまいりたいと考えております。

このように、私の 2 期目の市政も順調に進んでおりまして、皆さまにその成果を実際に感じていただくことができるようになってまいりました。こうした、さまざまな施策の究極の目的というのは、いつも申しておりますとおり、岡崎の市民、ことに子どもたちが、自分たちのふるさとに対してこれまで以上に大きな愛情と誇りが持てる、そんな夢ある新しい岡崎を築き上げることであります。ふるさとに対する愛情とか誇りというものは、与えたり教えたりすることができるものではなくて、自らの心に自然に湧き上がってくる、そうした情念の高まりではないかと考えております。私は、そうした心のある岡崎人、日本人が育ちまちづくりを目指しまして、これからも各種政策をしっかりと遂行していきたいと考えております。そして、次の 100 年を見据え、福祉や医療、防災や教育といった基本的施策の充実はもちろんのこと、さらなる魅力あるまちづくりに向けまして、まい進してまいる覚悟であ

ります。今後とも引き続き、皆さまがたのお力添えをお願い申し上げまして、私の話を終えさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

司会－ はじめに、藤川まちづくり協議会会長からごあいさつをいただきます。よろしくお願いいたします。

会長－ こんばんは。まちづくり協議会を代表しまして、ごあいさつを申し上げたいと思います。平成 29 年度の市民対話集会、数ある岡崎市の市民団体の中で、藤川まちづくり協議会を選定いただきましたことを大変うれしく思っておりますし、今日は市長さまはじめ市の幹部の方も大勢ご参加いただきました。御礼を申し上げます。

市長もおっしゃいましたけれども、昨年、岡崎市が市制 100 周年、その記念事業として市民プロジェクト支援事業というのがございます。通称、「新世紀岡崎チャレンジ 100」。私どもはそれに応募しまして、藤川まちづくり協議会の 20 年史っていうのを編纂したわけがございます。この 2 月に完成報告会を行いました。その編纂をするときに、いろんなことが私の頭によみがえってまいりました。現在の協議会の前身である「藤川地区まちづくり研究会」。これが平成 7 年に設立されたわけですが、そのかたがたのまちづくりに対する熱い思い、これが本当によく分かってきました。私どもまちづくり協議会は、その先人たちのまちづくりに対する熱い思いを継承しながら、次世代を担う子どもたちに、ふるさと藤川への誇りと限りない愛着を持ってもらえるような、そういう活動を続けていきたい、こんなふうに思ってるわけがございます。

藤川も、この数年来大きく変貌しました。平成 24 年 8 月 25 日、このむらさきかんがオープンしました。その年の 12 月 9 日に、道の駅藤川宿オープン。その前には藤川駅の跨線橋。さらにその前には名鉄の 4 号踏切の改修。大きな事業がこの数年来行われまして、藤川が大きく変貌しました。その中で私どもはまちづくり協議会をやってるわけですが、先ほど申し上げましたように、先人たちのまちづくりに対する熱い思い、まちづくりとは一体何なのか、まちづくりの原点は一体どこにあるのか、このことを常に問いながら活動をしていきたい、こんなふうに思っております。

しかし、まだまだ問題点はたくさんございますし、課題もございます。今日は、その中の問題点等をお話し申し上げて、われわれもこれからの指針にしていきたい、こんなふうに思っております。今後とも、市当局の限りないご指導をお願いしながら、まちづくり協議会のごあいさつとしたいと思っております。ありがとうございました。

司会－ ありがとうございました。それでは、事前に要望提案を伺っておりますので、順に発表をしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

団体代表 A－ 最初に、文化遺産や伝統の継承活動における市の役割、ならびに支援制度に

について伺いたいと思っております。私たち藤川まちづくり協議会は、旧東海道藤川宿の文化遺産と藤川の将来を展望したまちづくりの推進を活動の目的としております。中でも、町家など歴史的建造物の保存・活用や、伝統的なお祭りなどの継承活動は、この地域において大変重要なことだと考えております。つきましては、このような文化遺産や伝統を継承していく上で、市の役割および支援制度についてお聞かせ願いたいと思います。お願いします。

司会－ ありがとうございます。それでは回答を市長、よろしくお願いいたします。

市長－ 岡崎市におきましては、歴史文化資産を活かしたまちづくりに取り組むために、昨年の5月に歴史的風致維持向上計画の国の認定を受けまして、いわゆる歴史まちづくりを、市民の皆さまがたとともに進めているところなんです。歴史的な建造物というのは個人の所有である場合が大変多く、また、お祭りなどの伝統的な活動というものは、地域が一体となって支えていただいているものであります。そうした中で、市の役割は、公と民が連携できるように仕組みを整えることではないかというふうに思っております。その仕組みの一つに、歴史上の価値の高い建造物を歴史的風致形成建造物に指定する制度があります。本年の6月に、藤川町の十王堂を指定させていただきました。市場町の郷蔵も、ただ今指定の候補となっております。

これに伴いまして活用できる支援制度でありますけれども、指定された建造物の保全に必要な修理や、伝統的な活動の継承に必要な道具の修理などに対しまして、費用の一部ではありますけれども、岡崎市のほうから助成する制度を本年から開始しております。藤川町の十王堂を昔ながらの姿に戻す工事や、市場町の津島神社で行われる天王祭で使われる提灯が傷んでおりまして、その買い替えに対しましても活用いただいております。こうした歴史的な建造物や伝統的な活動というものは、地域の誇りや愛着の源となるものでありますので、地域と一体となってしっかりと守り育て、次の世代につないでいただくことを期待しております。よろしくお願いいたします。

司会－ よろしかったでしょうか。それでは、引き続き要望提案をよろしくお願いいたします。

団体代表B－ 岡崎市全体として、むらさき麦のPRについて伺いたいと思います。平成6年に芭蕉の句に刻まれたむらさき麦を復活して、20数年が経過しました。東海道五十三次宿駅制定400年記念の平成13年5月、第1回藤川宿むらさき麦まつりを開催。一時中断もしましたが、藤川の一大イベントとして、今年14回目を開催することができました。また、平成24年の道の駅藤川宿の開駅を機に、むらさき麦を使った各種食品の開発、むらさき麦100パーセントビールや、地域の大学・高校との連携による新商品の開発、オーナー制度の創設など、広くむらさき麦の普及とPRに努めてまいりましたが、市として、地域振興のた

めにも、むらさき麦のさらなる PR 策はないものかお伺いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

司会ー ありがとうございます。それでは回答を拠点整備担当部長、よろしくお願いいたします。

拠点整備担当部長ー 藤川地区の皆さんが、長年にわたって一丸となって取り組んでこられました、このむらさき麦。本市も、認知度が向上して市を代表するブランドの一つとなることを大変期待しております。これまでに、市政だよりですとか、あるいは市制施行 100 周年を記念して発行した「岡崎まちものがたり」、あるいは「岡崎市東部エリアガイドブック」をはじめとして、数多くのパンフレットでむらさき麦を取り上げるなど、機会あるごとに PR をしてまいったところでございます。

また、民間のほうでも、ケーブルテレビのミクスさんでの特集番組の制作、あるいは JTB パブリッシングさんの発行によります「るるぶ特別編集 岡崎市版」、この中でも掲載されております。また、今お話がありましたように、道の駅のほうでもむらさき麦メニューをご提供していただいたり、あるいは民間の方が開発されたむらさき麦商品の販売がされておりますし、大変多くの方がいらっしゃる新東名高速道路の岡崎サービスエリアでも、土産品としてむらさき麦ダックワーズといった物が販売されるなど、むらさき麦の認知度は高まっているところであろうかと思えます。

そんな中で、さらなる PR ということでございますけれども、市ではまちの魅力向上のためにシティープロモーションという活動に取り組んでおりまして、そのシティープロモーションの専用のホームページで、「岡崎ルネサンス」というページがございます。この中で、岡崎の食文化を代表する物として八丁味噌、法性寺ねぎ、それに並んで、この藤川のむらさき麦を紹介させていただいております。冒頭申しましたように、市を代表するブランドとなるように期待をしておりますので、こういった形で今後も情報発信の機会を捉えまして、「藤川宿といえば、むらさき麦」と、こういった形でセットにして PR に努めてまいりたいと思いますので、皆さまにもご支援、ご協力をいただきたいと思います。ありがとうございます。

司会ー よろしかったでしょうか。それでは、次の要望提案をよろしくお願いいたします。

団体代表 Cー 藤川駅跨線橋のエレベーター塔壁面の活用について、ご質問させていただきたいと思えます。藤川町のシンボルとして、むらさき麦の PR 塔として、藤川駅跨線橋のエレベーター塔の壁面を活用したいと思っております。この提案は、愛知産業大学造形学部デザイン科の学生さんと私どもまちづくり協議会が、毎年むらさき麦をテーマに、グループごとにデザイン、商品アイデア、PR ポスター、こういったものに取り組んでおります。そ

の中で一つのグループから、藤川駅の跨線橋のエレベーター塔壁面を活用して、むらさき麦を大々的にPRしたらどうかと、そういった提案があったものですから、ぜひご検討いただきたいということで、お願いいたします。

司会－ ありがとうございます。それでは回答を拠点整備担当部長、よろしくお願いいたします。

拠点整備担当部長－ 日頃は、跨線橋の清掃をしていただきまして本当にありがとうございます。今のご提案というのは、未利用部分のある公共施設をうまく使ったらいいじゃないかと、こういうことだと思います。今ご提案のPRということで申しますと、一般的にあまり知られていないことではあるんですが、屋外広告物法という法律がございまして、これによる許可が必要なものでございます。今回のご提案も、その提案の一つとして扱われるものなんですけれども、結論から申しますと、そういったものを設置することは可能でございます。

しかしながら、まず原則で申しますと、名鉄名古屋本線から100メートルまでの範囲が禁止区域ということになっておりまして、本来はPRのために壁面を利用することができないという場所なんです。駅の周辺に目を向けますと、むらさきかん、あるいは道の駅では、施設の名前が看板として出ております。こういった、施設の名称を示す看板というのは出すことができるんですけれども、その施設名称以外のPRということになると、先ほど申しましたように、原則としてはできないと。しかし、内容としましては、非常に地域の活性化にもつながることですし、高い公共性もあると考えられますので、景観審議会という審議会がございまして、ここでの審議、それから承認を得れば、設置することは可能でございます。なお、協議会のほうで看板を設置するということでありましたら、財政的な支援も市のほうで用意をさせていただきますので、ご利用いただければと、このように思っております。以上でございます。

司会－ 市長、お願いいたします。

市長－ ただ今の回答は、役所の担当者としてでございますので、どうしても法律に則って答えなければならないので、こういう答えになってしまいますけれども、私がニューヨークやサンフランシスコに行ったときに、横長の倉庫の壁に大きな実物大のクジラが描いてあったり、ニューヨークの高いビルに登ってるキングコングが描いてあったりして、大変面白いなというふうに思ったわけでございまして、ああいうものを上手に活かしていくと、まちが楽しい場所変わっていくわけでございます。法律がありますので、今日明日にすぐやるとは言えませんが、そうしたものを何とか活用していきたいなと、こんなことは考えております。

それから、むらさき麦の活用ということも、さっきございましたけども、この間新聞を読んどりましたら、たしか読売新聞だったと思いますけど、大変面白いものを発見しまして。皆さまがた、田んぼアートということで岡崎ににぎわいをつくっていただいているわけですけども、地元には愛知産業大学があって、そこには芸術学部もあるということでございますので、そういった人たちの力もお借りできないかと。たまたま、私が新聞で見た新潟の場合は、刈り入れ後のわらを使って、こんな大きなゴリラでありますとかライオンを、東京の大学とタイアップして、地元の農業者の方が一緒になってわらで作ったっていうんですね。この新聞の写真で、人間の大きさがちょうど指1本ぐらいですから、すごい大きさのもんなんです。岡崎も農業者の方がたくさんおみえになりまして、わらがたくさん出ると思うんですが、それをごみとして燃やしちゃう。それを、こういうふうを活用してくのも面白いんじゃないかなというふうに思っております、そんなことも、また考えていただけたらと思っております。以上です。

司会－ よろしかったでしょうか。それでは、次の要望提案をよろしくお願いいたします。

団体代表D－ 藤川宿の案内板等のデザインの統一化について、お尋ねしたいと思います。藤川宿を東西に走る旧東海道は、平成8年に歴史国道に指定されて、さらに岡崎市の景観重点事項になっております。また、歴史的風致維持向上計画の重点地区にもなっております。今後とも、藤川宿らしい景観や歴史が感じられるまちづくりを進めたいと考えております。つきましては、これまで整備されてきました案内板や、藤川宿のゆかりの歴史資産の解説板のデザインが少しバラバラではないかというのと、それから、一部老朽化して腐食している物もございます。先ほど会長も言いましたように、昨年、活動史をつくりましたときにいろいろ勉強させていただきまして、今、藤川宿には122基の案内板があります。そのうちの、平成24年にできました物は新しく作っていただきましたが、それ以前の物で、腐食したり朽ちている物がございますので、その辺も踏まえまして、デザインの統一化、すっきりとした案内板にして、宿場町にふさわしい物に改めていきたいというふうで、市側の考え方を教えていただきたいということでございます。

司会－ ありがとうございます。それでは、こちらの回答を拠点整備担当部長、よろしくお願いいたします。

拠点整備担当部長－ ありがとうございます。今、お話しいただきましたように、平成24年のときには、駅前の所にまず大きな全体の案内板を用意しまして、それから随所に、どちらかという道しるべという形で、緑っぽい物を用意させていただきました。それ以前から、この藤川地区では平成3年の東海道路ネッサンス事業、それから平成8年の歴史国道整備事業。そういったもので、その折々に案内板ですとか誘導板、あるいは解説板を文化財で設

置したり観光で設置したりした物が、さまざまございました。ご指摘のように、一つの事業の中では統一した形でやるんですが、時期が異なると、どうもバラバラだなあという印象になっておりまして、これが非常に課題であるというふうには考えております。古い物を更新する際には、順次同じような形になるようにしていきたいというふうには思っております。

ご指摘の不統一ということでは、この藤川地区に限らず、例えば岡崎公園の中でも同じようなことがありまして、市内全域で生じている課題となっております。これに対処するために、本市はこの4月にまちづくりデザイン課というところで、景観などに特に力を入れていこうと。歴史まちづくりも併せてやっていこうということで、新たにそういった部署を立ち上げて、市内のサインに統一感を持たせようという取り組みを始めたところでございます。そういった整備基本計画も策定しております。今後は、この計画に基づきまして、文化財であったり観光であったり、それぞれの部署が異なっても、統一された形のサイン・看板になるように整備をしていきたいというふうに思っております。ただ、看板などは民間のかたがたが設置をされる場合もあるものですから、そういったときの統一感をどのように持たせるかということも課題ではあります。私どもとしましては、民間のかたがたが看板を設置される際も事前にご相談がいただけるように、今後、呼び掛けをしていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

司会― 市長、お願いいたします。

市長― ただ今ご指摘いただきました、案内看板の不統一という点につきましては、これは私が市長になりましたときに、観光事業を推進していく中で一番最初に言ったことでございます。せっかくライオンズやロータリーからいろいろ寄付されるんですけども、その度に先方のご希望の形で受けていましたんで、結果的にバラバラな物が岡崎公園の中ではできております。まず、そうしたことを直してから始まるわけでありまして、今、リバーフロント計画の中で国の補助金を得ながら進めておりますので、ちょっと遅れておりますけれども、来年の春頃から順次できてきますので、ぜひご期待いただきたいと思います。

外国に行ったときなんか、例えばロンドンのまち中に行くと、観光案内板でかかしが手をあちこち差し伸ばしてるのがありまして、女の子がそこでポーズをとったりして。案内板がもう既に観光の名所になってるような、センスのいい物があちこちにできてるわけです。あんな物を岡崎のまち中に作りたいと思っております。ただ、藤川でありますとか、岡崎城のような歴史的な物につきましては、そういうものではありませんので、その景観に合った形で作ってくべきじゃないかというふうに思っております。長野県に行きましたときに、長野オリンピックの後だったんですけども、まち中に小さな灯籠がポイントポイントにずっと並んでまして。それは灯籠であると同時に、観光案内というか、まちの名前とか有名なものに対する矢印が指し示されてたんですけども、夜はここに小さなライトがつくんで

す。岡崎は石のまちですので、そうした物も活かしていったらいいなというふうには考えておりますので、ぜひいいアイデアがあったらいただきたいと思いますし、僕らも一生懸命考えておりますので、よろしくお願いいたします。

司会－ ありがとうございます。事前にいただいている要望提案は以上でございます。それでは、その他にご意見のある方がいらっしゃいましたら、ここでお伺いしたいと思いますので、挙手にてお願いしたいと思います。

団体代表E－ ちょっとお伺いと要望ですけれども。岡崎市は、宇頭から本宿まで、途中でバイパスが入ってきた所もありますけれども、東海道、昔の幹線道路で400年以上の歴史を持つ街道が走っております。それで、街道沿いで大平、矢作、本宿も、まちづくり協議会というのができております。そんな、バラバラでやってる形でございます。もちろん、地域性というのはあるものですが、市内でまちづくり協議会の情報交換っていうような機会ができたらいかなあと。お互いにいいところを取り合いながら、また、いろんな情報交換をしながら歴史まちづくりを、素晴らしい岡崎市内のまちをつくっていきたい。そういう思いは皆一緒だと思うんですが、そんなことが可能かどうか、市としてそのあたりをどのように考えていただけるのか、突然の質問ですけれども、お答えいただける範囲でお願いしたいと。

司会－ ありがとうございます。それでは回答を拠点整備担当部長、お願いします。

拠点整備担当部長－ ありがとうございます。今おっしゃっていただきましたように、歴史まちづくりということだけ捉えましても、本市の場合、東海道全体を細長く重点地区ということにしております。今おっしゃっていただいたことは、今後それぞれの地域で取り組んでいただく上で、非常に大切なことだなあと考えておりますので、すぐにというのはなかなか難しいですが、実現できるように、私どもとしては考えたいと思っております。

司会－ ありがとうございます。その他にご意見ございますでしょうか。よろしくお願いいたします。

団体代表F－ 東岡崎周辺への投資や乙川周辺への投資もとても素晴らしいことだと思うんですけど、私が通っている高校は部室とかが古くて。今は卒業生の皆さまからの寄付でそういう所の改修とかをしているんですけど、岡崎市からもさらなる教育への投資について、お考えはあるのかなあと想着して。できる限りでいいので、考えをお聞かせくださるとありがたいです。

司会－ どうもありがとうございました。それでは、こちらの回答につきまして総合政策部

長、よろしくお願いします。

総合政策部長－ 率直なご意見をいただきましたけれども、まず一つには、岡崎市の場合、市立高校がございません。全て愛知県立でございます。今ご指摘の旨というのは、多分県のほうへ伝えることになろうかと思います。私ども、おおむね担っとるのは小学校、中学校で、こちらのほうは市立ということで預からせていただいております。教育のいろんな設備、施設に関しましては、例えば今、小中学校ですとエアコンの問題とかいろいろありますけども、こういった物を少しずつ改善するようには努力しております。すみませんが、お尋ねの高校の件に関しましてはちょっと権限外でございますので、機会があれば何かお伝えするということで、回答させていただきます。

司会－ ありがとうございます。その他にご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。せっかくの機会ですので。

団体代表G－ 今、市場町の老人会で、市場町にございます藤川宿の駐車場のトイレの清掃ですとか、館内の清掃も含めて、毎日やっております。清掃も大変なことなんですが、あそこにある案内板の内容とか地図などが、ほとんど朽ちて見えない状態です。大変多くの方が来られているんで、われわれの立場として窓口にそれなりに伝えてはあるんですが、なかなか修理していただけてない。もう一つは、間伐材を利用したベンチ。これは丸太で作ってあるんですけども、座るとささくれが刺さるようなベンチでして。これは、近々直していただけるということをお聞きしております。ぜひとも、この場で持ち帰っていただいて、ご一考していただければ幸いです。よろしくお願いします。

司会－ はい、ありがとうございます。それでは拠点整備担当部長、お願いします。

拠点整備担当部長－ 日頃は管理していただきまして、本当にありがとうございます。今いただいたご要望ですが、早速持ち帰って、何らかの対策がなるべく早くできればいいなと思いますので、ちょっと検討させてください。

司会－ ありがとうございます。その他にご意見はございますでしょうか。

団体代表H－ 私、今、高校生だとか中学生の子どもがいるんですけども、昨今、治安が悪いということで、この藤川の駅に、皆さん車でお迎えに来たりとかいうことがあるんです。ちょっと見ていただくと分かるんですけども、このむらさきかんと線路の間が、かなりの車の通りがあるんですけども、実は車が1台通れるか通れないかというぐらい狭くて。すぐそこの橋なんですけども、1年に1回ぐらい田んぼに車が落ちちゃうっていうことがあります。

て。やっぱりあそこ、子どもたちがよく通ったりだとか、あとは通勤通学、お迎えとかいうのがありますので、当初の計画ですと、そこも道が広がるような形でできてたんですけども、その辺も再度、早急にやっていただくと非常に助かるなど。藤川はまちづくりではきれいにできてくるんですけども、住んでる人間はちょっとその辺のことができるといいなあとというふうに思っておりますので、よろしくお願いします。

司会－ ありがとうございます。拠点整備担当部長、お願いします。

拠点整備担当部長－ ご指摘の所がですね、率直に申し上げて、用地のご協力がいただけなかったということがありまして、やむなく今のような形になりました。元々はもうちょっと舗装されてなかった、でこぼこだったりしたとは思いますが、できる限り舗装はさせていただいたというような状況がございます。私どもとしては、ご協力がいただければこの地域にとってもいいのかなあとは思いますが、そういった事情があるということで、ご理解いただきたいと思います。

司会－ ありがとうございます。それでは他にご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

団体代表 I－ 先ほど、PR という件でお話があったんですけども、藤川だけじゃなくて全体的なお話をちょっとお聞きしたいんですが。ちょうど、今日から CBC テレビで「陸王」というドラマがやると思うんですけども、実はあのドラマ、結構豊橋のほうでロケをされてるそう。東三河ですけども同じ三河地区で、豊橋のほうで映画のロケですとか、そういうエンターテインメントの誘致をしてるのか、それとも、東京から 1 時間半で来れて、すぐ戻るっていう立地のよさでロケみたいなのに採用されてるかは分からないんですけども、この岡崎もプラス 30 分ぐらいで来れちゃいますし、せっかくいろんなお城ですとか素晴らしい景観もありますし、できましたら、徳川家康もいいんですけども、エンターテインメントっていうか、まちでロケをしてもらえとか、そういうふうな形でアピールしては。日本全体、世界に発信できるようなアピールみたいな形では、どのようにお考えなのかなと思います。

司会－ ありがとうございます。回答を市長、お願いいたします。

市長－ ちょっと話が長くなり過ぎちゃうもんで、今日はカットしちゃったんですけども、今進めております乙川リバーフロント計画完成の暁には、もちろんフィルムコミッションのことも考えていまして、映画の舞台として使っていただけるような景観を少しずつ整えたいと。もちろん、それもこっちから PR してかなきゃ駄目だと思います。そこもまた、考

えております。

司会－ 総合政策部長、お願いします。

総合政策部長－ 補足というわけではございませんが、実はちょっと前に、岡崎市を主にロケの舞台にした番組というのが行われておりまして。豊橋の場合は多分、以前 TBS の「ルーズヴェルト・ゲーム」でしたか、そのときに誘致して、恐らく今回も同じ TBS でございますので、そのときの流れかと。やはり、こういったものっていうのはプロデューサーとつながるといいですから。われわれも以前、それほど有名になりませんでしたけども、ドラマで岡崎を舞台にさせていただきまして、やっぱりこれも、その制作会社とわれわれがつながっていますので。今、市長さんが申し上げましたけども、フィルムコミッション活動としてこういったのを継続してやってまいりますので、リバーフロント計画とか歴史まちづくり、ロケ地となり得るような整備が進んでいけば、どんどんそういったものも誘致できるのかなあと、そういうふう考えております。よろしくお願いいたします。

市長－ さっき言い忘れちゃいましたけど、最近、ちょっとした番組で岡崎が出ることって多いと思いませんか。やっぱり注目されてるんですよ。この間、国会議員に要望活動やる会議がありまして、愛知県下の国会議員と代表が集まって話し合ったんですけども、最近、岡崎を真似してまちづくりに歴史だとか、川辺の風景を使うということで売り出した所が全国で出てきたということ、国会議員の皆さんが僕に言いまして。愛知県下でも海部郡のほうが、同じくリバーフロント計画というのをこれからやるというんですよ。岡崎のケースを真似してやると。そういう意味で、われわれは地元のことでするので割と辛く評価しちゃってますけど、結構いい線いっておりますので。今、国交省の役人があちこちで宣伝してくれてるんですよ。それでよそから見学にみえる方もいますし、こちらも一生懸命アピールしていますんで、よろしくお願いいたします。

司会－ ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

団体代表 J－ すいません、すごく小さいことで伺っているか、お願いでございます。先ほど、こういった歴史的なまちづくりということで、街道沿いに、それが皆、各町内で進められているというお話をお伺いいたしました。市のほうで設置される各種案内板等の形を統一されるというお話がございましたんですが、そうしますと、手前ども町内会でも、いわゆる町内会の案内板というのも、私どもでも 10 カ所ございます。そういった物にやはり、くたびれてるのがございますんで、これから順次、建て替えていかないといけないなという状態でございます。その際に、せっかくですからデザイン等、統一感を持たせたほうがいいんじゃないかなあと思うんですが、そういったことで、市のほうからこういう形にするよと

というようなことをお教えいただければ、私どももそのようにさせていただきたいなと思いますし、その際、市のほうからのお勧めでございますので、少々おあしのほうも足していただけるとありがたいんですが、というお願いでございます。よろしくお願いいたします。

司会－ ありがとうございます。拠点整備担当部長、お願いいたします。

拠点整備担当部長－ 先ほど申しましたように、設置されるということであれば、更新されるということであれば、ぜひその前にご相談をいただければと思います。統一感のあるような形ができるといいなあとしますので、お願いします。それから、助成というのは今のところございませんのですけども、ちょっと難しいかなあというのが率直なところでございます。すいません。

司会－ 市長、お願いいたします。

市長－ この案内板というのは、本当に重要な問題だと思ってます。岡崎公園で藤棚を売り物にしとるんですけども、こともあろうに、藤棚の一番ベストポイント、一番皆さんが写真を撮りたい場所に、実は案内板が付いておりまして。僕は、最初にそれを見つけて怒ってね。一体何を考えとるんだ、ここからの景観ってのが最高の売り物であって、いくら案内板であろうとって、こんな所に作っちゃ、目隠しするみたいで本当に何にもならないと。それで、これ言って撤去して場所を変えたんですけども、これが一つの例でありますとおり、いくら案内板を置くのに目立つ場所だといっても、そこに置いてあるものが台無しになってしまうような付け方っていうのは駄目でございますので。その辺のところをしっかりと地元の皆さんとも相談して、考えて、効果的な所に邪魔にならない形で、しかも、見やすい案内板を付けるというふうに思っております。

司会－ よろしかったでしょうか。それでは時間のほう過ぎておりますので、この質問で最後にさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

市長－ もし、どうしてもこれを言いたいっていう方がありましたら、僕、残っておりますので。個人的な事でも結構です。

団体代表K－ 今、朝の通勤時間帯に、新しく道ができた養川の所から吉良道と旧国道の交差点の所が、非常に混むようになりました。その道の車の流れがだいぶ変わってきたように思うんですけども、朝の時間帯が非常に混んで、通学に支障も出てる状態です。何かその所で、道の変更とか広げるとかというような計画はあるんでしょうか。境松の所の吉良道と旧国道の境の所が非常に狭くて。あそこは、緑丘から来ると道が広くなって、車が非常に多く

なって、車の量がだいぶ変わってきてるんですけども、なんか計画とかあるんですか。

司会－ ありがとうございます。総合政策部長、お願いします。

総合政策部長－ 県道名でいうと福岡市場線ですか。よく緑丘へ行く所ですね。本当は区画整理事業の中で取り込めると一番よかったんですけど。エリア外ということですけども、今、県のほうはかなり力を入れてくれて、順次工事が進んでいるかと。市としても、確か市内の市道ではかなり要望順位の高い、といいますのは、もう目途がつけれるだろうという道路ということですね。今、確か現状はずっとできておって、あとは本当に最後の部分ですが、今、あそこの所の道路の設計も、鋭意用地買収に入ってるというのは聞いておるんですけども。

団体代表Ｌ－ それに関係しまして、実は東のほうの市場町はもっと大変でして。緑丘から蓑川まで立派な道路ができて、その旧東海道が擦れ違えないような道路です。それを朝、子どもたちが通学する。中学生が東海中学まで自転車で行く。この間の、朝 7 時から 8 時ぐらいの間、1 号線のガードをくぐって農道というか、そこを使って。その向こうを今度、東海中学校の要望で朝は通行止めにしたものですから、大体、市場町の半分ぐらいまで朝 7 時半ぐらいは渋滞します。そんな所を子どもたちが歩いて、自転車が、中学生が通って。ほとんど県道なんですけど、この辺を何とか市のほうでも対策なんか考えていただけないかっていうことです。

総合政策部長－ その辺の事情は存じておりますけども、どうしてもあそこは近隣の事業所さんの通勤帯で、もうはっきり言ってパンクしております。以前は事業所が、中を通るの禁止してませんでしたでしょうか。舞木町の辺りも国道 1 号を避ける車が多くてですね、以前、確か通行止めにしたんですけども、なぜか開放されてしまってますね。確か、美合の中もそうですね。以前は、朝の時間帯は西へ行く所は一部通行止めになっと思ったかと思うんですけど、今はもう全てオールフリーで、パンパンになってますけども。ですから、今言われた所はですね、事業所さんとお話をすればいいかと。

団体代表Ｌ－ 事業所とはちゃんと話してるんです。蓑川の所までがいい道路ができてしまったものですから、今まで通らなかった人が東からも入ってくる、西からも入ってくるから、この旧東海道がものすごい交通量が増えたんです。そういうことが原因だと思います。

総合政策部長－ 分かりました。ただ、先ほどご質問のあった道路というのは、東高校の前から名古屋鉄道をまたぎまして、工業団地のほうへくっついていく道路なんですけども、今、こうやってお話を伺っても、多分、地元のほうでもなかなか簡単にはいかない道路でありま

して。ただ、今はちょっとご不便をおかけすることになろうかと思えますけども、道路は順次できてまいりますので。本来は旧国道、藤川に入らずに、あそこの東高校の前を出た方がいったん西へ戻って国道 1 号に出られるといいんですけれども、どうしてもそういう手段をなかなか選択されないものですから。ただ、今言われたようなことは重々分かりますので、一度、道路部局とも相談いたします。もしかしたら警察との協議もいるかと思えますけども。まずは、とにかく入るところの量を減らすしかないものですから、どういう手が打てるか、そこは持ち帰らせていただきますので、申し訳ございません。今日はそのあたりのご回答とさせていただきます。

司会― 貴重なご意見、どうもありがとうございました。それでは、最後に市長よりごあいさつを申し上げます。

市長― 本日は総選挙の真っ最中でございます。しかも、天気も悪い夜分にも関わらず、こうしてお集まりいただきまして、ありがとうございます。今日、皆さまがたからさまざまなお意見をいただきまして、私たちまた認識を新たにしたところであります。今日のお答えの中で、皆さまにご理解いただけたもの、また、十分なお答えができなかったものがあると思えますけども、今日は一応、担当部局のトップの責任ある者が来て、直接お聞きしておりますので、すぐにそれが改善されるかどうかは分かりませんが、できる限り早急な段階で対応できるように努力してまいりますので、どうぞご理解いただきたいと思います。それから、今日、時間の都合でもう少し言いたいという方がおみえになりましたら、後で私、残っておりますので、個別でお話をお聞きいたします。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。